

## 大豆と小麦と塩水が お醤油になるまで

No. 3

お醤油を仕込んで3ヶ月の報告です。

お醤油になりそうな気がしてきましたね？そういう気配が漂っています、ね？

わたくし事ですが（このレポート自体が？）夏休みですので、子どもたちと山へキャンプに行ってきました。わたしの拙い運転で（愛犬が助手席で足を踏ん張っていました）何とか無事に帰宅し、ドアを開けると匂う！！お醤油（？）の匂いです。

どうなってしまったの？！と開けてみると……案の定、浮いてます。白い物が……。

去年は、出なかったのに～。ちょっと危険な臭いですね、アレは。

悪かったよ～置いて行って。犬とカブトムシと子どもたちを乗せたら満席だったんだよ～。と泣きを入れて、3日目で白いフヨフヨ消失。仲直りに成功いたしました。

アレが消えてくれなかったら「大豆と小麦と塩水が……一体！何に……なるのか！??」のレポートになるところでした。さすがにそれは恥ずかしい……。よかった～。

さてさて、夏休みです。久しぶりに田舎のおばあちゃんに会いに行ってきました。

彼女は満面の笑顔でニガウリ茶を振舞って「ニガイから誰も飲まんよ」「……（なぜ～？）」みんなの表情で察して、いそいそと赤しそジュースを出してくれました。（絶品！）

子供の頃、夏休みは半分ほど田舎で過ごしていたのでこの季節の田舎が一番懐かしい。おじいちゃんにくっついて、干瓢作りが大好きでした。

縞のないスイカを輪切りにすると中が真っ白！びっくりしていたら、おじいちゃんは笑いながらざくざく輪切りにして、剣山とハンドルとかなをくっつけたような木製の装置の剣山部分にその輪切り干瓢を刺し、ハンドルをくるくるっと回すとぴゃ～っと純白のリボンがかなに削られて出てくるのです。（私がやると10cm程でした。）

それを河原に広げた大きなゴザの上に切らないように並べて干すのです。

河原からの帰り道。いとこ達と暑い暑いと騒いでいると「風が来る」とおじいちゃんが言うのです。次の瞬間、本当に風が吹いて涼しい。「どうして？」と聞くと、一面の青い田んぼの向こうを差して「見ててみ」「???」「風が見えるじゃろう？」

確かに、風が向こうの方から順に青い稲葉を揺らして、やってくるのです。「ほんまや！」

あの頃、「風が見える」という事は、宝物をもらったような気がしたんです。

田舎からの帰り。

車中で母が「この頃の田んぼの見える景色が一番好き」と言うのを聞いて同じ宝物を受け取った仲間だ、と知りました。おじいちゃんはお星様で笑っているかもしれません。

ああ、あの干瓢の芯。「昔は食べたのよ！」と母は言いますが、ふわふわして綿を触っているように気持ちがいいんです。泥だらけの手で散々愛でた後で、田んぼや畑へと投げていました。勿論、誰が一番遠いかを競って。

今だったら、煮物にしたのになあ。どんな味だったんだろう。

皆さんのお醤油ベビーはご機嫌にされていますか？

(チャイム 2004年9・10月号掲載)

